

# 赤井谷地湿原における水文環境解析

11108048 工藤 日和

## 研究背景

湿原の乾燥化を抑制し保全していくため  
水環境保全策が各地で実施

しかし 保全策の有効性の具体的な  
評価はなされていない

## 研究目的

調査データを精査

測定した数値を解析

赤井谷地における流出特性をモデル化し  
水環境保全策の効果を明らかにする

## 調査地概要

調査地名: 赤井谷地沼野植物群落  
位置: 福島県会津若松市  
猪苗代湖北西岸より約1km  
形状: 南北に約800m, 東西に約900m  
面積: 約68.6ha  
標高: 約520m  
平均気温: 約9.5°C



ミズゴケを主とする高層湿原で、  
モウセンゴケやホロムイイチゴなど  
北方系の希少植物が自生している。



第二次世界大戦後の食糧増産のため  
周辺部が一部開墾された。  
昭和3年に国の天然記念物に指定され  
平成19年に周辺の休耕地が湿原への  
回復を目的として天然記念物として  
追加指定された。

## 過去の水環境保全策

### 新四郎堀付け替え

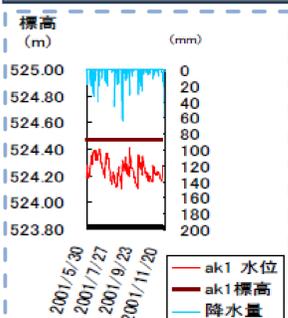
西側水田復元  
圃場整備対象から  
除外し、湿原への  
復元をはかる

北側水田復元  
圃場整備対象から  
除外し、湿原への  
復元をはかる

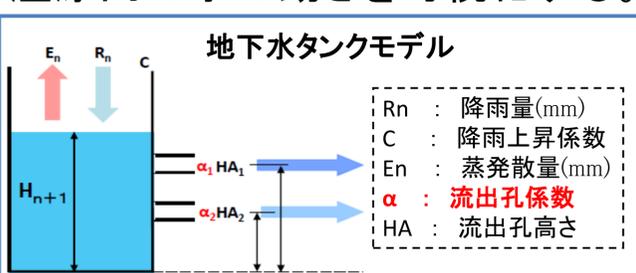
赤井川付け替え  
東側へ付け替え、  
湿原からの排水  
を抑制する

鋼矢板施工(2001/8~10)  
緩衝地を設けた上で圃場整備地区  
との境界に敷設することで湿原内の  
地下水位の安定化をはかる

## 解析方法



地下水タンクモデルを用いて  
地下水位、降雨量等を解析し  
湿原内の水の動きを可視化する。



## 調査方法



### 気象観測



## 今後の展望

回収済みの地下水位、気象データを精査し  
引き続き測定を行う。  
地下水流向・流速を測定し、保全策による  
湿原内の地下水への影響を把握する。

赤井谷地の水文特性をモデル化し、  
地下水の動きを予測可能にする。  
また、水環境保全策の評価を行う。